

## 取扱いの趣旨

精製ヒアルロン酸ナトリウム点眼液の効能・効果に該当しない結膜炎（アレルギー性含む。）に対する算定は、原則として認められない。

## 支払基金が公表している取扱いの全文

【投薬】

《令和6年4月30日》

### 112 精製ヒアルロン酸ナトリウム点眼液の算定について

#### ○ 取扱い

結膜炎（アレルギー性含む。）に対する精製ヒアルロン酸ナトリウム点眼液（ヒアレイン点眼液）の算定は、原則として認められない。

#### ○ 取扱いを作成した根拠等

結膜炎は、ウイルス性結膜炎、細菌性結膜炎、アレルギー性結膜炎に大別される。治療には原因疾患に応じて、ステロイド点眼薬、非ステロイド系抗炎症点眼薬、抗菌点眼薬又は抗アレルギー点眼薬を使用する。

精製ヒアルロン酸ナトリウム点眼液（ヒアレイン点眼液）は、角結膜上皮障害治療用点眼剤であり、添付文書の効能・効果は、内因性疾患（シェーグレン症候群、スティーブンス・ジョンソン症候群、眼球乾燥症候群（ドライアイ）等）、又は術後、薬剤性、外傷、コンタクトレンズ装用等による外因性疾患に伴う角結膜上皮障害である。

以上のことから、結膜炎（アレルギー性含む。）に対する精製ヒアルロン酸ナトリウム点眼液（ヒアレイン点眼液）の算定は、原則として認められないと判断した。

グラフの見方

- 1 棒グラフ（該当レセプトの審査結果）  
精製ヒアルロン酸ナトリウム点眼液（ヒアレイン点眼液）を算定している目視対象レセプト1万件  
当たり、条件（結膜炎（アレルギー性含む。）に対し算定）に該当するレセプト件数
- 2 折れ線グラフ  
該当レセプトのうち、精製ヒアルロン酸ナトリウム  
点眼液（ヒアレイン点眼液）が査定・返戻となった割合

【棒グラフ凡例】 審査の結果

査定	返戻	: 取扱いどおり
請求どおり 職員等	請求どおり 審査委員	: 検証が必要

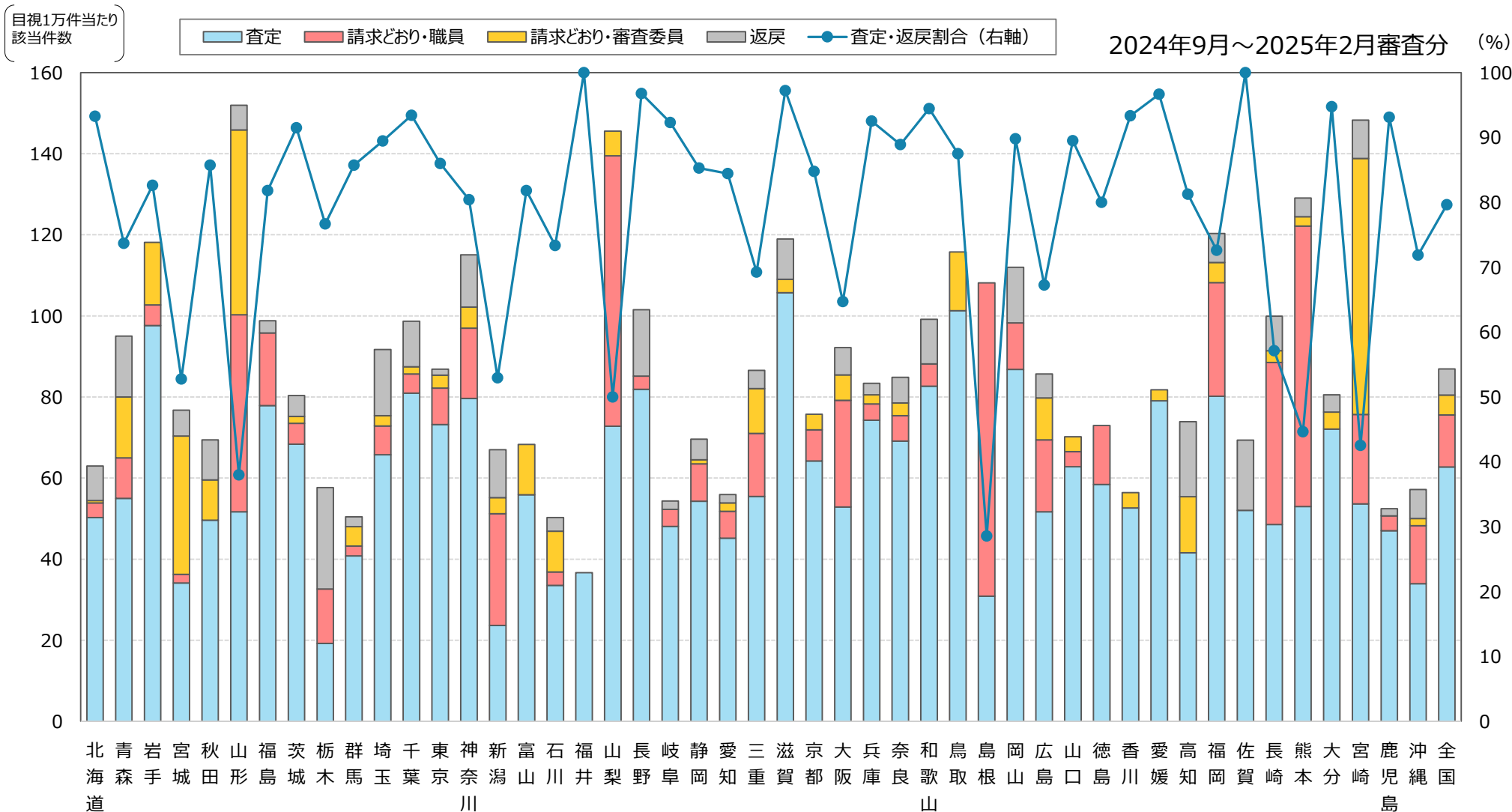
審査結果の概要

- 全国の査定・返戻割合 79.62%
- 検証対象都道府県 33

検証観点	都道府県※	備考
査定・返戻割合が低い	島根、山形、宮崎、熊本、山梨、宮城、新潟、長崎、大阪、広島、三重、沖縄、福岡、石川、青森、栃木	査定・返戻割合の低い順
請求どおり・職員	島根、熊本、山梨、山形、長崎、福岡、新潟、大阪、宮崎、福島、広島、神奈川、三重、徳島、沖縄、栃木	対象1万件当たり件数の多い順
請求どおり・審査委員	宮崎、山形、宮城、岩手、青森、鳥取、高知、富山、三重、広島、石川、秋田、大阪、山梨、神奈川、福岡	//

※検証対象都道府県が16を超えたため、16都道府県を限度に表記している

該当件数（全国）	【条件】	3,223件
取扱いに基づく審査	査定・返戻の計	2,566件
検証を必要とする審査	請求どおり	657件



該当件数	104	19	23	36	14	50	33	47	30	21	180	167	521	286	17	11	15	8	24	31	26	68	135	39	36	59	354	147	27	18	8	14	49	58	19	15	15	30	16	219	16	35	56	19	47	29	32	3,223
請求どおり件数	7	5	4	17	2	31	6	4	7	3	19	11	73	56	8	2	4	0	12	1	2	10	21	12	1	9	125	11	3	1	1	10	5	19	2	3	1	1	3	60	0	15	31	1	27	2	9	657

【該当件数】結膜炎（アレルギー性含む。）に対して精製ヒアルロン酸ナトリウム点眼液（ヒアレイン点眼液）を算定しているレセプト件数